2018年（平成30年）12月30日（日）　毎日新聞

時代の記憶 震災とテロ

印象残った 最多は「東日本大震災」

平成という時代

日本の世論2018

毎日新聞は10～12月、埼玉大学社会調査研究センターと共同で、来年4月に幕を閉じる平成時代を主なテーマに、時事世論調査「日本の世論2018―あなたの平成―」を実施した。平成時代に起きた出来事で特に印象に残ったものを、複数回答可で20項目から選んでもらったところ、「東日本大震災と福島第1原発事故」（2011年）が78％で最も多かった。「地下鉄サリン事件」（1995年）70％、「米国同時多発テロ」（01年）67％、「阪神大震災」（95年）66％と続いた。（8、9面に特集）

5位以下は「JR福知山線脱線事故」（05年）31％、「ベルリンの壁崩壊」（89年）30％など。金融危機のひとつの象徴として挙げた「山一証券破綻」（97年）は、14％にとどまった。上位4項目の数字が突出して高い。同センター長の松本正生教授は「二つの大震災と原発事故、テロが人々に与えたインパクトと、その後の報道による記憶の相乗作用の表れだろう」と指摘する。

また、平成に起きたさまざまな災害が考え方や価値観を「変えた」は77％にのぼり、「変えない」の7％を大きく上回った。「変えた」と答えた人に最も変化したことを聞いたところ、「自然に対する見方」が58％で最多だった。

調査は全国の有権者2400人を対象に郵送法で実施。1274人から有効回答を得た。回答率は53％。【平林由梨】

平成に起きた出来事で特に印象に残ったもの

1位	東日本大震災と福島第1原発事故	2011年	78％
2位	地下鉄サリン事件	1995年	70％
3位	米国同時多発テロ	2001年	67％
4位	阪神大震災	1995年	66％
5位	JR福知山線脱線事故	2005年	31％
6位	ベルリンの壁崩壊	1989年	30％
7位	神戸連続児童殺傷事件	1997年	27％
8位	秋葉原無差別殺傷事件	2008年	21％
8位	相模原障害者殺傷事件	2016年	21％
10位	御嶽山噴火	2014年	19％

モノの昭和から家族へ

平成という時代

日本の世論2018

本社・埼玉大共同調査

来年4月30日に幕を閉じる「平成」は、どんな時代として振り返られるのだろうか。今年で6回目となる毎日新聞と埼玉大学社会調査研究センターによる世論調査に据え、郵送法で実施した。昭和期の調査とも比較しながら、国民の意識を探った。

得た・失った 共に首位

コラージュ 松本修之

平成の30年間に私たちの生活はずいぶん変わってきた。そこから「何かを得た」と感じる人は44%で、「何かを失った」と感じる人は33%だった。若年層ほど「何かを得た」の割合が高く、18~29歳64%、30代57%、40代50%。50歳以上は37%と半数を割り込んだ。

「日本の世論2018」は、「あなたの平成」をテーマに郵送法で実施した。昭和期の調査とも比較しながら、国民の意識を探った。

平成の30年間に私たちの生活はずいぶん変わってきた。そこから「何かを得た」と感じる人は44%で、「何かを失った」と感じる人は33%だった。若年層ほど「何かを得た」の割合が高く、18~29歳64%、30代57%、40代50%。50歳以上は37%と半数を割り込んだ。

調査の方法が異なるため単純に比較できないが、「戦後四半世紀」を振り返った1970(昭和45)年の面接調査では、「何かを得た」では、「得たもの」と「失ったもの」は何か。自由記述で回答してもらったところ、いずれも家族を表す言葉が最も多かった。

自由記述の回答は、毎日新聞が文意をくんだ上でいくつかのグループに分類した。トップだった家族を表す言葉は、「何かを得た」と答えた人の約4割が挙げており、「家族」「子供」「孫」「家庭」などが多かった。「何かを失った」人も、約2割が挙げた。内訳は「親」「家族」「父」「夫」など。

「得たもの」で次に多かったのは、「インターネット」や「スマートフォン」などの言葉を含むIT・通信技術の発達に関連することや物。3位は「便利」など利便性に関連する言葉だった。

「失ったもの」の2番手は、「心遣い」や「心の豊かさ」など心に関する言葉。「絆」や「人間関係」など、人とのつながりに関する言葉が続いた。

70年の調査では、「何かを得た」と回答した人のうち、約4割が物品や衣食住の充実、収入の向上による生活の安定を挙げた。自由や民主主義など政治的、社会的な概念を挙げた人が続いた。

また、「失ったもの」はトップの「心」に次いで「道徳、礼儀、秩序」「人間性」。いずれも抽象的な概念が並んだ。

■得たもの

1位	家族(家族、子供、孫、家庭など)	221件
2位	IT・通信技術(インターネット、スマートフォン、パソコン、携帯など)	66件
3位	便利さ(便利さ、利便性など)	43件
4位	仕事(仕事、職、役職など)	39件
5位	友人(友、友人、友達など)	29件

■失ったもの

1位	家族(親、家族、父、夫、母など)	78件
2位	心(心)	60件
3位	つながり(つながり、コミュニケーション、人間関係など)	34件
4位	思いやり(思いやり、人情、優しさなど)	32件
5位	ゆとり(ゆとり、余裕)	30件

得たものの記述事例

- 結婚し、子供が生まれた (59歳・男性)
- 震災を乗り切った家族のチームワーク、きずな (59歳・女性)
- 孫の笑顔 (64歳・男性)
- インターネットやスマホの普及による情報格差の縮小 (26歳・男性)
- コミュニケーションの多様化 (57歳・男性)
- 日に日に増す便利さ (24歳・男性)
- 自分で働いて稼ぐこと (35歳・女性)
- 正社員としての職 (26歳・男性)
- お互いに認め合える友とパートナー (32歳・女性)
- 自然エネルギー (63歳・女性)
- 宇宙ロマン (50歳・男性)

失ったものの記述事例

- 東日本大震災で父と祖母 (48歳・男性)
- 日本人の道徳観、心遣い (81歳・女性)
- 心の豊かさ (45歳・女性)
- バブル崩壊により財産を失った (64歳・女性)
- SNSで情報収集はするが、身近な人への関心がなくなった (31歳・女性)
- 人間同士の関係が淡泊になり人々の心がなくなった (30歳・男性)
- 日本人としてのプライドや誇り (57歳・男性)
- 人間らしいやさしさ、思いやり (65歳・女性)
- 時間と心の余裕 (34歳・男性)
- 安室ちゃん (26歳・男性)
- 役人・政治家への信用 (72歳・女性)
- 中間層・働き盛り (82歳・男性)

「親しみ」から「尊敬」へ

天皇の印象 即位直後から変化

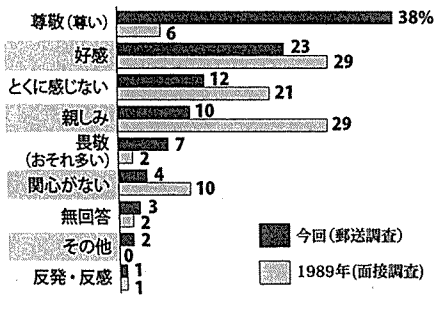
被災地などで国民に寄り添う姿勢を貫き、戦没者の慰霊にも心を砕いて「平成流」の新しい天皇像を確立された天皇陛下。調査で陛下にどんな感じを持っているか尋ねたところ、「尊敬(尊い)」が38%で最も多かった。「好感」23%、「親しみ」10%、「畏敬(おそれ多い)」7%と、8割近くの人が肯定的な感情を挙げた。その他は「とくに感じない」12%、「関心がない」4%、「反発・反感」1%だった。

陛下の即位直後の89年3月に実施した調査(面接調査)では、「親しみ」「好感」がそれぞれ29%で最多。「尊敬(尊い)」は6%。調査方法が異なるため単純に比較できないが、陛下に対する国民の感情が親しみから尊敬へと変化した様子がうかがえる。

来年5月1日に新天皇に即位される現在の皇太子殿下に対しては、「好感」が28%でトップ、「尊敬(尊い)」は22%だった。「とくに感じない」が21%で続いた。

「比島戦没者の碑」に供花される天皇、皇后両陛下=フィリピン・ラグナ州カリラヤで2016年1月29日午前11時55分(代表撮影)

天皇陛下に対してどんな感じを持っているか



信じるもの「子供」と「夫・妻」最多

「信じることのできるもの」を複数回答可で選んでもらったところ、「子供」と「夫・妻」が48%でトップに並び、「お金」と「親」が44%で続いた。

男女別にみると、「子供」と答えた人は男性40%、女性56%。「夫・妻」は、男性(妻を信じる)54%、女性(夫を信じる)43%。男性は子供より妻、女性は夫より子供、という傾向が強いようだ。

90年の調査では、「夫・妻」53%、「子供」29%、「親」22%だった。神や仏の存在を信じるかについては、46%が「信じる」と回答。「信じない」の29%を上回った。「わからない」は24%。調査方法が異なるため単純に比較できないが、85年の調査では、「信じる」は51%、オウム真理教による地下鉄サリン事件のあった95年の調査では44%だった。今回は、そこからほとんど変わっていない。

「くに」で思い浮かべるもの

「日本」53%「故郷」は10%

「くに」という言葉を聞いた時に何を思い浮かべるか、最もイメージに近いものを選んでもらったところ、「日本」が53%で大差のトップだった。2位以下は「国土」11%、「故郷」10%など。

同じ質問をした71年の調査では「日本」が32%で最多。「故郷」20%、「国土」14%と続いた。調査方法が異なるため単純に比較できないが、今回は「日本」の割合の高さに対し「故郷」の低さが目立つ。

武庫川女子大の佐竹秀雄名誉教授(日本語学)は「昭和の高度経済成長期、地方出身者は『あなたのおくには』とよく聞かれた。その頃は『くに』という言葉に故郷のイメージが残っていた。それが、今回の調査では『日本』という大きなまとまりに収斂したようだ」と分析。「平成の間に一極集中が進んで地方が廃れ『故郷』の意識が薄れた。一方、国際化の波が、五輪に代表されるようなナショナリズムに通じる『日本』の意識を強めたのではないか」と指摘した。

つながり、一番身近に求め

城戸久枝氏 ノンフィクションライター

=和田大典撮影

昭和51(1976)年に生まれた私は昭和の高度経済成長を知らない。バブル経済も大学に入る前にはじけ、まったく恩恵を受けなかった世代だ。

調査では若い世代ほど、平成の時代に「何かを得た」という回答が多い。これは「ないところから始まった」世代を象徴する結果にみえる。右肩上がりで経済成長した時代を知る50代以上と、その下の世代では幸せを測る物差しが変わった。もう一つ興味深いのは、「得たもの」も「失ったもの」も、ともに「家族」が最多だった点だ。

昭和45年の調査でトップだったのは、得たものが「物質、品物」、失ったものは「心」だった。

大災害が相次いだ平成は、ソーシャル・ネットワーキング・サービス(SNS)によって被災地の様子がリアルタイムで拡散された時代でもあった。それは支援の輪を広げたが「何が起こるか分からない」という不安も増した。

景気も数字上は回復しているというが、ほとんどの人に実感はない。アジアの最先進国だという誇りも、この30年で色あせた。自殺者数が年間3万人を超えたのも平成に入ってから。モノやサービスを手に入れる夢より家族に目が向くのは、不安や経済的な余裕の乏しさの反映だろう。

また、近所付き合いしがらみは薄れ、SNSで世界中の人ともつながることができるようになった。でも、直接顔を合わせて語り合うことに比べると、つながっているようでつながっていない。だからこそ、一番身近な家族につながりを求め、失いたくないという思いを抱くのではないか。

きど・ひさえ 76年、愛媛県生まれ。中国で戦争孤児となった父親の半生をたどった「あの戦争から遠く離れて」は大宅壮一ノンフィクション賞などを受賞。戦争の記憶を語り継ぐことをテーマに取材を続ける。

主な質問と回答

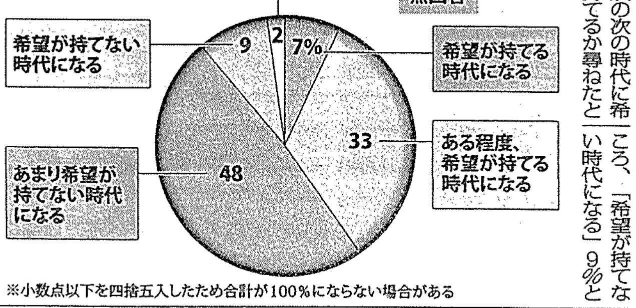
	全体	前回	男性	女性
◆「平成」の約30年間に、日本の生活はずいぶん変わってきました。いまふりかえってみて、「何かを得た」と感じますか。それとも「何かを失った」と感じますか。				
何かを得た	44	42	46	
何かを失った	33	34	33	
◆「平成」に起きた出来事で以下のもののうち、特に印象に残ったものは何ですか。				
1989年 東京・埼玉連続幼女誘拐殺人事件	10	8	12	
1989年 天安門事件	12	15	9	
1989年 ベルリンの壁崩壊	30	32	28	
1990年 日本人初の宇宙飛行	8	5	11	
1991年 湾岸戦争勃発	17	22	14	
1995年 阪神大震災	66	65	67	
1995年 地下鉄サリン事件	70	68	72	
1995年 ウィンドウズ95発売	5	5	5	
1997年 神戸連続児童殺傷事件	27	20	32	
1997年 山一証券破綻	14	14	14	
2001年 米国同時多発テロ	67	68	66	
2005年 JR福知山線脱線事故	31	27	35	
2006年 ライブドア社長、村上ファンド代表逮捕	6	7	5	
2008年 秋葉原無差別殺傷事件	21	19	23	
2008年 アイフォーン日本販売開始	6	6	5	
2011年 東日本大震災と福島第1原発事故	78	78	78	
2014年 御嶽山噴火	19	14	22	
2015年 「イスラム国」による日本人人質殺害	15	12	18	
2015年 日本年金機構個人情報流出事件	12	10	13	
2016年 相模原障害者殺傷事件	21	15	25	
◆「平成」の次の時代の日本が日本人にとって希望が持てる時代になると思いますか。				
希望が持てる時代になる	7	10	5	
ある程度、希望が持てる時代になる	33	32	34	
あまり希望が持てない時代になる	48	46	49	
希望が持てない時代になる	9	10	9	
◆「平成」の次の時代を良くするためには、どうしたらいいと思いますか。				
ゆとりや心の豊かさを追求できる社会にする	50	48	51	
国民生活を最優先に考える社会にする	50	47	53	
環境破壊への監視の目をより厳しくする	31	26	36	
福祉や教育への予算配分を増やす	39	36	42	
学歴や年功でなく実力本位の社会を実現する	21	20	22	
税金の不公平を是正する	38	35	40	
役人や政治家の数を減らし「小さな政府」を実現する	41	41	41	
より一層の経済発展を目指す	17	21	15	
その他	3	3	3	
◆「くに」という言葉を聞いたとき、何を思い浮かべますか。次のうち、最もイメージに近いものを選んでください。				
大地	2	2	2	
国土	11	12	9	
故郷	10	10	9	
日本	53	51	55	
政府や政治	7	6	8	
天皇	4	4	4	
総理大臣	1	—	1	
両親や実家	1	1	0	
日の丸や君が代	3	2	3	
思い浮かべない	3	4	3	
◆天皇陛下に対し、どんな感じを持っていますか。				
畏敬(おそれ多い)	7	6	7	
尊敬(尊い)	38	37	39	
親しみ	10	11	9	
好感	23	22	24	
反発・反感	1	1	1	
とくに感じない	12	14	10	
関心がない	4	5	4	
その他	2	2	2	
◆皇太子殿下に対して、どんな感じを持っていますか。				
畏敬(おそれ多い)	3	3	4	
尊敬(尊い)	22	23	21	
親しみ	14	13	14	
好感	28	25	31	
反発・反感	1	1	1	
とくに感じない	21	23	19	
関心がない	6	6	6	
その他	3	3	3	
◆「平成」の時代は、阪神大震災、東日本大震災をはじめとするさまざまな災害が起きました。こうした災害は考え方や価値観を変えましたか。				
変えた	77	77	77	
変えない	7	10	5	
どちらともいえない	14	11	17	
◇<「変えた」と答えた方へ>最も変化したのはどんなことですか。				
自然に対する見方	58	56	60	
科学技術への信頼	4	5	3	
死生観・運命観	25	25	25	
日本に住むことの安心感	5	7	4	
この中にはない	6	5	7	
◆日常生活の中で外国人と接することがありますか。				
よくある	7	8	6	
ときどきある	22	25	20	
あまりない	34	34	34	
全くない	36	33	39	
◆2017年の在留外国人は約256万人と、過去最多でした。あなたは、自分の暮らす地域に外国人が増えることに賛成ですか、反対ですか。				
賛成	19	22	16	
反対	24	26	22	
どちらともいえない	56	51	61	
◆「平成」の時代に、女性、性的少数者(LGBTなど)、障害者、在留外国人が以前に比べて生きやすい社会になったと思いますか。				
A)女性				
思う	61	66	58	
思わない	30	25	35	
関心がない	6	6	6	
B)性的少数者(LGBTなど)				
思う	41	38	43	
思わない	33	36	31	
関心がない	22	23	21	
C)障害者				
思う	49	48	50	
思わない	42	44	41	
関心がない	4	5	4	
D)在留外国人				
思う	42	43	42	
思わない	33	36	31	
関心がない	19	18	21	
◆次にあげる「平成」に起きた政治に関する出来事に対して、良い印象を持っていますか、悪い印象を持っていますか。あなたの知っているものについてお答えください。				
A)消費税導入 1989年				
良い印象	28	32	24	
悪い印象	58	56	59	
関心がない	10	10	11	
B)PKO協力法成立 1992年				
良い印象	28	37	20	
悪い印象	26	26	25	
関心がない	40	32	46	
C)細川護熙連立内閣発足 1993年				
良い印象	20	24	16	
悪い印象	20	25	16	
関心がない	54	47	61	
D)村山談話を発表 1995年				
良い印象	17	20	16	
悪い印象	21	30	14	
関心がない	55	47	62	
E)初の小選挙区制選挙 1996年				
良い印象	21	24	18	
悪い印象	27	34	20	
関心がない	46	38	54	
F)小泉純一郎内閣誕生 2001年				
良い印象	65	65	66	
悪い印象	12	15	10	
関心がない	19	18	20	
G)北朝鮮による拉致被害者の初の帰国 2002年				
良い印象	85	83	87	
悪い印象	4	5	2	
関心がない	9	10	8	
H)郵政選挙で自民党大勝 2005年				
良い印象	31	36	28	
悪い印象	27	30	24	
関心がない	38	32	43	
I)民主党政権誕生 2009年				
良い印象	28	28	28	
悪い印象	38	45	32	
関心がない	31	25	35	
J)安保関連法成立 2015年				
良い印象	24	32	17	
悪い印象	35	38	32	
関心がない	37	28	44	
◆国会で憲法改正の議論を進めることに賛成ですか、反対ですか。				
賛成	46	53	41	
反対	24	28	20	
わからない	29	18	38	
◇<「1.賛成」と答えた方へ>国会で最も議論してほしい憲法改正のテーマを次の七つの中から選んでください。				
天皇の位置づけ	5	4	6	
憲法9条	38	45	30	
環境権などの新しい人権	6	6	7	
緊急事態条項	13	12	14	
衆院・参院のあり方	16	15	17	
国と地方自治体の関係	13	9	17	
その他	3	3	3	
◆あなた自身が経済的に豊かかどうか、社会的な地位が高いかどうかは、次のどれによる結果だと思いますか。				
自分自身の行動	48	57	41	
社会や歴史などの影響	10	9	11	
どちらともいえない	23	20	25	
わからない	18	12	22	
◆一生の目標を持っていますか。				
持っている	47	50	45	
持っていない	25	25	25	
そんなことは考えたことがない	26	23	28	
◆超高齢化社会を迎え、「人生100年時代」が到来するとも言われています。100歳まで生きるとすると、最も必要なものは何ですか。				
健康	50	47	52	
家族・友人	13	15	12	
生きがい	13	15	11	
お金	22	20	22	
わからない	1	1	1	
◆神や仏の存在を信じますか、信じませんか。				
信じる	46	42	50	
信じない	29	36	23	
わからない	24	21	26	

右面につづく

心の豊かさ追求に希望

次の時代「悲観」57%

「平成」の次の時代の日本が日本人にとって希望が持てる時代になるか



※小数点以下を四捨五入したため合計が100%にならない場合がある

平成の次の時代に希望が持てるか尋ねたところ、「希望が持てない時代になる」9%と「あまり希望が持てない時代になる」48%を合わせた「悲観派」は57%。「希望が持てる時代になる」7%と「ある程度、希望が持てる時代になる」33%を合わせた「楽観派」の41%を上回った。

一方、現在、どの程度幸福と感じているかを聞くと、「ある程度」68%と「大いに」13%を合わせ、8割以上が幸福と感じている。「あまり感じていない」は15%、「全く感じていない」は3%。今、最も不安に思うことは、「老後の生活」が38%で、同じ質問を始めた16年調査から3年連続のトップだった。

現状に対する肯定感と将来への不安が交錯する。そんな平成最後の空気感が数字に表れたようだ。

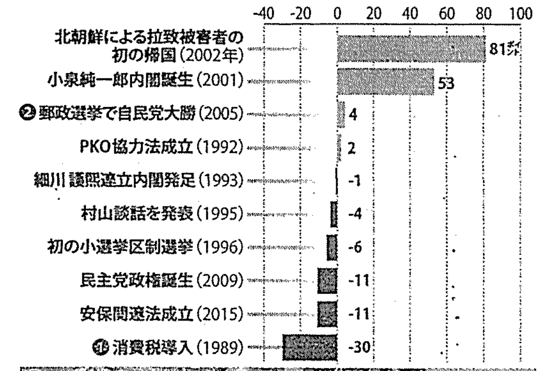
では、平成の次の時代を希望が持てる時代にするにはどうしたらよいか。九つの選択肢から複数回答可で選んでもらったところ、「国民生活を最優先に考える社会にする」と「ゆとりや心の豊かさを追求できる社会にする」が50%でトップに並んだ。

「役人や政治家の数を減らし『小さな政府』を実現する」41%、「福祉や教育への予算配分を増やす」39%、「税金の不公平を是正する」38%、「環境破壊への監視の目をより厳しくする」31%などが続いた。

「より一層の経済発展を目指す」は17%にとどまり、「その他」の3%を除くと最下位だった。経済的な発展より身近な生活や精神的な充実を求める傾向が強い。

平成の間に平均寿命は約5歳延び、2065年には女性は90歳を超え、男性も85歳に近づくとの予想もある。100歳まで生きるとすると最も必要なものは、「健康」が50%で最多。「お金」22%、「家族・友人」「生きがい」各13%だった。

政治に関する出来事に対する印象度指数
※印象度指数……良い印象の比率(%)から悪い印象の比率(%)を引いた数値



①消費税の導入に反対するデモ＝東京都杉並区で1989年 ②郵政選挙の公示を前に街頭演説をする小泉純一郎首相(当時)＝兵庫県伊丹市で、三村正司撮影

1位は拉致被害者帰国

最下位は消費税導入

政治・印象度

平成に起きた政治に関する10項目の出来事に対する印象を、それぞれ「良い印象」「悪い印象」「関心がない」の3択で聞いた。「良い」の割合から「悪い」を引いた数字を「印象度指数」とし、高い順に並べたところ、トップ3は全て小泉純一郎氏の首相在任中の出来事だった。

1位は「北朝鮮による拉致被害者の初の帰国」(02年)でプラス81ポイント。小泉首相が同年9月、平壌で初の日朝首脳会談に臨み、同10月、蓮池薫さんら5人がチャーター機で羽田空港に到着した。

2位は「小泉内閣誕生」(01年)で同53ポイント。小泉氏は「自民党をぶっ壊す」と叫び、圧倒的な支持を得て首相に就任した。3位は「郵政選挙で自民大勝」(05年)の同4ポイント。

印象度指数が最も低かったのは「消費税導入」(89年)のマイナス30ポイント。年代別にみると、40代は同41ポイントと特に低い。18～29歳はプラス3ポイントだった。

このほか、ワースト3に入ったのは「安保関連法成立」(15年)と「民主党政権誕生」(09年)で、いずれもマイナス11ポイントだった。

どの階層か「中の下」が37%

日本社会を五つの層に分けた場合、自身は「中の下」に入ると答えた人が37%で最も多かった。「中の上」と「下の上」が各21%で続いた。その他は「上」1%、「下の下」7%、「わからない」13%だった。

自身の経済的な豊かさや社会的な地位が「自分自身の行動の結果による」と答えた人は48%で、「社会や歴史などの影響」の10%を大きく上回った。「どちらともいえない」は23%だった。

自身がもらうとしたら「勤続給」と「能力給」のどちらを望むか尋ねたところ、60%が能力給を選んだ。勤続給は38%。年代別にみると、30代は70%が能力給と回答。20代、40代もそれぞれ67、66%で全体を上回った。

小泉氏 新鮮なイメージ今も

松本正生氏

埼玉大社会調査研究センター長

＝根岸基弘撮影

消費税導入の印象度指数がマイナス30ポイント(良い28%、悪い58%)と最下位になった。超高齢社会で福祉の充実を目指すならば、議論は避けて通れない。政治が及び腰になって消費税を鬼っ子にしてしまうのは、国民にとっても不幸だ。

一方、小泉内閣誕生に対する評価が高い。普段は政治に関心がない人をも引きつけた、その新鮮なイメージが今も残っているのだろう。民主党政権誕生に対するマイナスイメージとは好対照だ。安倍晋三首相の支持者は男性優位だが、小泉氏は女性からの支持も高かった。今回も「良い印象」と答えた割合は、男性65%、女性66%と差がない。

各項目の回答を分析すると、特定の政策への評価が安倍内閣に対する支持・不支持と密接に関連している。「安保関連法成立」について、安倍内閣支持層の印象度指数はプラス35ポイントと高いのに対し、不支持層ではマイナス48ポイントと極端に悪化する。「PKO協力法成立」も同様だ。憲法改正をめぐる各種調査でも同じ傾向がみられる。

こうした政策課題への賛否は内閣に対する支持・不支持を分ける指標になるため、注目を集めやすい。しかし、多数を占めるのは中間的な意見の人たちだ。中間派の人たちが、賛否の両極対立をどう見ているのか、きちんと把握する必要がある。

女性61% 性的少数者41%

生きやすい社会と「思う」

女性や性的少数者(LGBTなど)、障害者、在留外国人にとって、平成は以前に比べて生きやすい社会になっただろうか。

女性については、生きやすい社会になったと「思う」が61%で、「思わない」の30%を大きく上回った。「関心がない」は6%。しかし、受け止め方には男女差がある。男性の「思う」66%、「思わない」25%に対し、女性は「思う」58%、「思わない」35%。当の女性は現実の厳しさを実感している人が多いようだ。

性的少数者については、「思う」41%、「思わない」33%、「関心がない」22%。性的少数者の人権問題に詳しい金沢大人文学類の岩本健良准教授は「多様な性のあり方への理解は若年層を中心に徐々に進んでいるが、根深い差別や偏見は残っている。全体的な改善を実感するには不十分で、過渡期の社会状況が反映したのではないか」と指摘する。

障害者については、「思う」49%、「思わない」42%と見方が分かれた。

在留外国人については、「思う」42%、「思わない」33%。「関心がない」が19%と、性的少数者と同様に高かった。

外国人労働者の受け入れを拡大する改正入管法が成立し、新制度がスタートする来年4月以降、在留外国人は増える見通し。自分の暮らす地域に外国人が増えることへの賛否を尋ねると、多かった回答は、「どちらともいえない」の56%だった。「反対」24%、「賛成」19%。日常生活の中で外国人と接することがある人は「よく」7%と「ときどき」22%を合わせても29%にとどまる。身近な問題として受け止めていない人も多いようだ。

「スマホある」10～40代 95%

LINE利用は8割

平成も後半になって一気に普及したスマートフォンは、今やすっかり日常生活に溶け込んだ。今回、75%が「自宅にスマホがある」と回答。13年調査の48%から30ポイント近く上昇した。

年代別では若年層の保有率が高く、10～40代は95%だった。

「ガラケー」と呼ばれる携帯電話の保有率は47%で、13年の75%から30ポイント近く低下し、スマホと逆転した。

また、インターネットでコミュニケーションすると答えた人に、何を利用するか聞いたところ、「メール」と「ライン(LINE)」が80%で並んだ。16年調査の郵送回答ではメール84%、LINE69%で、LINEの伸長が際立つ。

スマホのなかった時と今と比べて、一日のうちで電話や顔を合わせて会話する時間が変わったかどうか聞いたところ、「変わらない」51%、「減った」33%、「増えた」15%だった。

憲法改正議論「賛成」46%

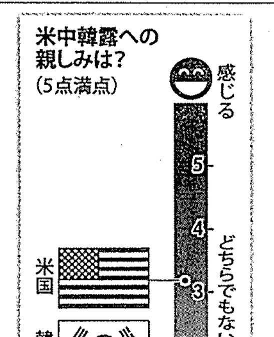
安倍晋三首相が強い意欲を示す憲法改正をめぐっては、先の臨時国会で自民党条文案の国会への提示が見送られた。改憲は、平成の次の時代へと積み残された課題になる可能性が高い。

国会で憲法改正の議論を進めることに「賛成」は46%、「反対」24%、「わからない」は29%だった。自民支持層は賛成が65%と過半数を占めたが、「支持する政党はない」と答えた無党派層は、賛成36%、反対28%、わからない35%と意見が分かれた。

改憲の議論を進めることに賛成と答えた人に、最も議論してほしいテーマを選んでもらったところ、「憲法9条」が最多の38%だった。

「衆院・参院のあり方」が16%で続き、「緊急事態条項」「国と地方自治体の関係」各13%、「環境権など新しい人権」6%、「天皇の位置づけ」5%などとなった。

対米親密度 過去最低に



この調査では14年から毎回、米国、中国、韓国、ロシアの4カ国に対し、どの程度親しみを感じるか、10年後の関係は現在と比べどう変化していると思うか、それぞれ5点満点で聞いている。

親しみを「感じる」を5点、「感じない」を1点として「親密度」を評価してもらったところ、平均点は米国3・2点▽中国1・9点▽韓国2・1点▽ロシア1・8点――。米国は17年に比べ0・2点のマイナスで過去最低だった。トランプ政権の保護主義的な政策や社会的少数派に対する不寛容さへの反発が影響している可能性がある。他の3国は17年から横ばい。10年後の関係について「良くなっている」を5点、「悪くなっている」を1点とした平均点も米国は3・2点で過去最低。中国2・4点、韓国2・5点、ロシア2・4点だった。

回答の謝礼活用 寄付つき世論調査

「日本の世論」は、回答者に謝礼(500円の図書カード)を贈る代わりに同額を社会事業団体に寄付する「寄付つき世論調査」として13年にスタートした。寄付先は「あしなが育英会」「日本赤十字社」「毎日新聞東京社会事業団」の3団体で、「寄付ではなく謝礼」も選択できる。

今回、無効回答を含む回収数1322人のうち、あしなが育英会を選んだ人は432人、日本赤十字社は217人、毎日新聞東京社会事業団は141人だった。寄付先を回答しなかった166人は、あしなが育英会と日本赤十字社に半分ずつ配分した。あしなが育英会に25万7500円、日本赤十字社に15万円、毎日新聞東京社会事業団に7万500円を、毎日新聞社が回答者に代わって寄付する。謝礼を選んだ人には図書カードを贈る。

有効回答のうち謝礼を選択した割合は28%。謝礼も選べるようにした15年以降、最も高かった。寄付つきの調査を提唱した埼玉大社会調査研究センター長の松本教授は「あらゆることに謝礼や見返りが求められる社会的風潮にあらがい、対価を寄付に変える試みをこれからも続けていきたい」と話している。

花岡洋行・あしなが育英会事務局次長 皆様のご支援に心からお礼申し上げます。病気、災害や自殺によって親を亡くした子どもたちへの教育支援と心のケア活動に大切に使わせていただきます。

大野博敬・日本赤十字社事業局パートナーシップ推進部長 この度のご寄付に心より御礼申し上げます。災害時の医療救護活動や、平時の防災教育の推進など、国内外で赤十字が行う人間のいのちと健康、尊厳を守る活動に大切に使わせていただきます。

渡部聡・毎日新聞東京社会事業団常務理事 当事業団へのご寄付ありがとうございました。寄付金は児童福祉、高齢者福祉、障害者福祉などに使わせていただきます。

左面からつづく

主な質問と回答

	全体	前回	男性	女性
◆あなたが、信じることのできるものは次のうちではどれですか。				
仕事	17		19	15
夫・妻	48		54	43
宗教	5		6	4
お金	44		40	47
友達	28		27	30
親	44		41	46
思想・信条	16		18	14
兄弟姉妹	34		30	37
子供	48		40	56
その他	4		4	4
特にない	6		7	6
◆スマートフォンのなかった時と今と比べて、一日のうちで電話や顔を合わせて会話する時間が変わりましたか。変わった場合は、増えたか減ったか、お答えください。				
増えた	15		14	15
減った	33		34	32
変わらない	51		50	51
◆サラリーマンの給料の型を、①長く勤めている人ほど給料の高い「勤続給」と、②仕事のよくできる人ほど給料の高い「能力給」の二つに分けると、もらうとしたら、どちらの型の給料を望みますか。				
勤続給	38		35	40
能力給	60		64	57
◇では、どちらの方が平等だと思いますか。				
勤続給	34		32	35
能力給	63		66	61
◆今の生活に満足していますか。				
大いに満足している	7	(4)	7	8
ある程度、満足している	65	(61)	62	68
あまり満足していない	22	(29)	25	19
全く満足していない	5	(6)	5	4
◆現在、どの程度幸福と感じていますか。				
大いに感じている	13	(9)	13	14
ある程度、感じている	68	(67)	65	70
あまり感じていない	15	(20)	18	13
全く感じていない	3	(4)	3	2
◆10年後の日本は今より住みやすい国になっていると思いますか、思いませんか。				
思う	14	(9)	16	12
思わない	56	(60)	56	56
わからない	29	(29)	27	30
◆あなたの世帯では、去年の今ごろと比べて、ひと月に使うお金が増えましたか、減りましたか。				
増えた	40	(39)	37	43
減った	20	(19)	21	19
変わらない	39	(41)	41	37
◆今、最も不安に思うことを次の中から選んでください。				
老後の生活	38	(43)	37	39
自分や家族の健康	31	(22)	31	31
就職や雇用	6	(5)	8	5
出産や子育て	4	(4)	3	4
地震などの災害	14	(8)	13	15
テロや戦争	2	(11)	2	2
その他	3	(3)	4	2
◆今の日本社会を以下にあげる五つの層に分けたとすると、あなた自身はどれに入ると思いますか。				
上	1	(1)	2	0
中の上	21	(18)	23	19
中の下	37	(40)	37	39
下の上	21	(22)	21	20
下の下	7	(7)	7	6
わからない	13	(9)	10	16
◆安倍内閣を支持しますか、支持しませんか、それとも関心がありませんか。				
支持する	31	(40)	35	28
支持しない	42	(41)	44	41
関心がない	24	(18)	20	28
◆どの政党を支持していますか。				
自民党	32	(35)	35	30
立憲民主党	7	(12)	9	5
国民民主党	1		1	0
公明党	2	(4)	2	3
共産党	3	(3)	4	3
日本維新の会	2	(3)	2	1
希望の党	0	(7)	0	0
自由党	0	(0)	1	0
社民党	0	(1)	1	0
その他の政治団体	0	(0)	0	—
支持する政党はない	50	(33)	43	55
◆米国、中国、韓国、ロシア各国との関係についておたずねします。◇四つの国に対し、どの程度「親しみ」を感じますか。<以下は「1親しみを感じない～5親しみを感じる」の平均点>				
米国	3.2	(3.4)	3.4	3.1
中国	1.9	(1.9)	1.9	1.9
韓国	2.1	(2.1)	2.1	2.2
ロシア	1.8	(1.8)	1.8	1.8
◇四つの国と日本との10年後の関係は、現在と比べてどう変化していると思いますか。<以下は「1悪くなっている～5良くなっている」の平均点>				
米国	3.2	(3.3)	3.3	3.1
中国	2.4	(2.3)	2.5	2.4
韓国	2.5	(2.4)	2.4	2.5
ロシア	2.4	(2.4)	2.4	2.4
◆自宅にある通信・通話・情報機器はどれですか。				
固定電話	80	(81)	78	82
携帯電話	47	(53)	47	47
スマートフォン	75	(70)	75	76
タブレット端末	38	(32)	39	38
パソコン	69	(66)	74	66
◆インターネットを使用する際に、何をしますか。				
メールなどのコミュニケーション	64	(56)	62	66
情報の検索や収集	70	(65)	73	67
映像や音楽を試聴する	37	(30)	39	35
買い物	37	(33)	39	37
ゲーム	23	(18)	23	23
ネットは使用しない	14	(15)	11	15
◇<コミュニケーションと答えた方へ>コミュニケーションには何を利用しますか。				
メール	80	(81)	81	79
フェイスブック	19	(22)	22	16
ツイッター	15	(16)	15	15
ライン(LINE)	80	(79)	76	82
インスタグラム	18	(15)	14	21
ミクシィ	1	(1)	1	1
その他	2	(1)	2	1

(注) 一部を除き数字は%、小数点以下を四捨五入。平均は小数第2位を四捨五入。0は0.5%未満、―は回答なし。無回答は省略。複数回答は合計が100%を超える。カッコ内の数字は前年実施した調査「日本の世論2017」の結果。

調査の方法 全国240地点の選挙人名簿から層別2段無作為抽出法で選んだ有権者2400人を対象に郵送法で実施した。16、17年に導入したインターネットによる回答窓口は、今回は設けなかった。10月9日に告知はがき、17日に質問用紙を郵送し、12月10日までに回答を得た。代理回答などを除いた有効回答は1274人、回答率は53%。性別は今回から選択肢に「答えない」を追加。男性46%、女性53%、答えない1%だった。年代別では18・19歳2%、20代8%、30代11%、40代17%、50代18%、60代18%、70代17%、80代7%、90歳以上2%。

この特集は、平林由梨、倉岡一樹、池乗有衣、大隈慎吾、原田和行が担当しました。